鳴門教育大学附属幼稚園

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

（令和３年度）

令和4年3月

学 校 関 係 者 評 価 委 員 会

目　次

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について　1

Ⅰ　学校関係者評価者結果　3

Ⅱ　評価項目ごとの評価　5

評価項目１　教育課程・指導　5

評価項目２　保健安全管理　5

評価項目３　組織運営　6

評価項目４　研究と研修　6

評価項目５　教育環境整備　7

評価項目６　教育実習　7

参考：学校の現状及び目的　8

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

はじめに

本報告書は学校評議員，大学教員，附属学校部会の組織体として連関する公立幼稚園園長，保護者等の学校関係者で構成された鳴門教育大学附属幼稚園学校関係者評価委員会が附属幼稚園の教育・研究活動の観察及び園長をはじめとする教職員との意見交換等を通じて同園の自己評価結果について概評することを基本に学校関係者評価を実施し，その結果を取りまとめたものである。

１　学校評価の目的

学校評価は，次の3つを目的として実施するものである。

① 学校が自らの教育活動その他の学校運営について，目指すべき目標を設定し，その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより，学校として組織的・継続的な改善を図ること。
② 学校が自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により，適切に説明責任を果たすとともに，保護者，地域住民等から理解と参画を得て，学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
③ 学校の設置者等が，学校評価の結果に応じて，学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより，一定水準の教育の質を保証し，その向上を図ること。

２　学校評価に係る実施スケジュール

令和3年5月　第1回学校関係者評価委員会(委員長の選出,令和3年度自己評価に係る目標及び評価項目について,学校評価に係る実施スケジュール等)。
令和3年5月～4年3月　学校関係者評価委員による施設見学,保育･園行事等の参観及び教職員との意見交換(幼児教育研究会等)。
令和4年2月　第2回学校関係者評価委員会(自己評価の結果及び改善方策等に関する説明を受けての学校関係者評価の実施と評価報告書の作成等)。

３　学校関係者評価委員会委員(令和4年3月現在)

○木下　光二：鳴門教育大学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻
教員養成特別コース　教授
新居　　大：附属幼稚園みどり会会長
山越　　明：徳島文理大学短期大学部　保育科　准教授
湯地　宏樹：鳴門教育大学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻
子ども発達支援コース　教授

(50音順，○は委員長)

４　本評価報告書の内容

(1)「Ⅰ　学校関係者評価結果」

「Ⅰ　学校関係者評価結果」では，「Ⅱ　評価項目ごとの評価」において，評価項目１から6のすべての評価項目の内容を総合的に判断し，4段階評価で記述した。

【4段階評価の基準】
A 十分達成されている
B 達成されている
C 取り組まれているが,成果が十分でない
D 取組が不十分である

また，学校の目的に照らして，「主な優れた点」，「主な改善を要する点」を抽出し，上記結果と併記した。

(2)「Ⅱ　評価項目ごとの評価」

「Ⅱ　評価項目ごとの評価」では，評価項目1から6において，当該評価項目が達成されているかどうかの「評価結果」（4段階評価）及びその「評価結果の根拠・理由」を記述した。

(3)「参考」

「参考」では，自己評価書に掲載されている「Ⅰ　学校の現況及び目的」を転載した。

５　本評価報告書の公表

本報告書は，鳴門教育大学に提供するとともに，設置者に提出する。またウェブページ（http://www.naruto-u.ac.jp/schools/06/002.html）への掲載を通じて，広く社会に公表する。

Ⅰ　学校関係者評価結果

鳴門教育大学附属幼稚園の学校関係者評価は内容を総合し，4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断した。

主な優れた点について，以下に列挙する。今年度も，新型コロナウイルスの感染が拡大し，特殊な状況の中での取り組みであるにもかかわらず，徳島県教育委員会や大学との連携を密にしつつ，県内外の研修や研究会等への指導や支援，本園の幼児教育研究会において全国に向けて情報を発信するなど，その実績や貢献度はとても高く評価できる。幼児教育において質保障の重要課題となっている今日，本園の環境や保育者の支援，子どもの学びや育ちを担保し，園として最大限の努力を重ねていることは特筆すべき点である。

○　「１　教育課程・指導」においては，教育課程・指導計画である「生活プラン」に基づき，不断のカリキュラム・マネジメントが実施されている。幼小中一貫型教育プラン「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」における評価要素カテゴリー（「A発見と問題解決」「B言葉への関心」「C数量と図形(平面･立体･空間)」「D協同的感性」）を幼児期から児童期の発達や学びの具体的な姿として可視化し，指導の反省と改善に生かしている。幼稚園教育要領の「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をより深化させたものであり，全国的にみても極めて先進的な取り組みとして評価できる。オープンスクールの保護者アンケート（とてもよい保育が98％）や自由記述においても，保護者の絶大の信頼を得ていることが窺える。

○　「２　保健安全管理」においては，保健計画に基づき全職員による保健指導体制での保健管理が適切に実施されている。幼児と保護者が一緒に読める「ほけんだより」を発行したり，臨時休園中にも生活習慣や感染症予防に関する動画を配信したりしている。園の環境衛生については学校薬剤師による指導や環境安全管理に努め，今年度も，新型コロナウイルス感染予防対策として，手洗い，手指消毒，咳エチケットなどの保健指導を徹底するとともに，遊具や室内などの消毒を職員全員で行っている。また安全管理計画に基づき，定期的な安全点検や防災・避難訓練を実施し，問題点や課題を見いだして次年度に反映させるなど危機管理体制が機能している。

○　「３　組織運営」においては，園長のリーダーシップのもと，研究部・教育実習部・教務部それぞれに主任を配置し，全教職員が園務分掌に従って幼稚園運営が円滑に行われている。特に今年度は，副園長（専任教頭）が配属され、組織力やマネジメント力の向上を図ることができた。少数精鋭主義に徹して，職員が互いに協力して園務の能率化・省力化が図れるよう配慮するとともに，各種行事における責任者を分担制（主任・副主任）にし，主体的に園経営に参加できるように努めている。

○　「４　研究と研修」においては，「遊誘財」の研究を継続的に行い，園内研修・研究会・合同研究会，園外の研修会等への参加とともに，文部科学省や国立教育政策研究所をはじめ，県内外からの多数の要請に応えて研修会などの講演や実践指導などを精力的に行っている。今年度は，「遊誘財研究をいかした『質』向上への挑戦－保育内容・

方法の改善・充実に向けてー」のテーマのもと，昨年度と同様に幼児教育研究会をオンラインで実施し、遊誘財研究で得た学びを発信し，現場の先生方に活用できる提案を行った。結果として1100名を超える申込があり，最終的に 1145 回の視聴回数を数え，今年度の研究内容にも高い関心が向けられていたことが窺える。

○ 「５　教育環境整備」においては，幼児の生活や遊びが充実するための教育環境の整備に常に心を尽くしており，オープンスクールのアンケート結果における「環境整備について」の項目でも高く評価されている。施設・設備・遊具・用具等の整備を常に意識し，幼児が生活しやすいよりよい教育環境作りに徹している。また，点検のシステムを確立させることで，職員の安全に対する意識を高め，潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を確実に見つけ出し，附属学校係や大学施設課による迅速な対応がなされている。今年度も，新型コロナウイルスの感染予防対策には万全を期し、環境整備に努めている。

○ 「６　教育実習」においては，ふれあい実習，附属学校園観察実習，附属学校園実習オリエンテーション，附属学校園実習，基礎インターンシップ，総合インターンシップⅠ・Ⅱなど，コロナ禍にもかかわらず年間を通して多くの実習生を受け入れており，指導教員によるきめ細やかな指導のもと，保育記録やカンファレンス等を通して実習生自身の省察力やカリキュラム・マネジメント力を促す工夫がなされている。特に今年度はICTやTeamsを活用し効果を上げることができた。

主な改善を要する点について，以下に列挙する。

○ 「３　組織運営」においては，業務の外注や共同作業化・効率化を図ったりするなど，少数精鋭のチーム一丸となって「働き方改革」に取り組んでいる。これまでは職員が行っていた施設や遊具の修繕・塗装などは外注したり，幼児教育研究会の参加申込みを外部業者に委託したりすること等を始めた。また、仕事の共同作業化と工具等の購入等の改善を随時行うなど，職員の負担軽減のための方略を工夫しているが，業務や組織構成の見直しを行う必要はまだある。

○ 「５　教育環境整備」において，安全管理体制と設置者との連携によって，潜在事故の危険性の回避や補修工事がなされたが，園舎全体に老朽化が目立ち，部分補修でしのいでいるという実態がある。上記の優れた実践や実績から裏付けられているように，本園は本学の教育・研究活動の貢献に留まらず，幼児教育界においても先導的な役割を果たしている。幼児の安心・安全を保障し，家庭や地域における幼児教育の拠点としてさらに発展するために「幼児教育総合施設」を見据えた園舎建設を設置者側に継続して要請したい。

Ⅱ　評価項目ごとの評価

評価項目１　教育課程・指導

【評価結果】　以下の内容を根拠として，4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点１－１　幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

「生活プラン」（別添資料１－③）の月別指導計画シートを作成し，指導の評価を定期的に実施したり，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点からの評価を取り入れたりするなど組織的・計画的にカリキュラム・マネジメントを実施している。令和3年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（別添資料１－①），令和3年度幼稚園評価アンケート結果報告書（別添資料１－②）においても保護者及び関係者から高い評価が得られていることから優れた取り組みであると判断される。

観点１－２　幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムの実施と改善に関する取り組み状況

幼小中一貫型教育プラン「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」によって，幼小の合同保育・授業の展開と改善が積極的になされており，幼児期から児童期の発達や学びの具体的な姿（「A発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤　②論理的に理由付けされた行動)」，「B言葉への関心（①話すこと・聞くこと　②書くこと)」，「C数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現　②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ」，「D協同的感性（①協同的な言葉や表現　②人間を理解し関係を調整する力（21項目))」）を可視化しようという試みなど優れた取り組みであると判断される。

評価項目２　保健安全管理

【評価結果】　以下の内容を根拠として，4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点２－１　保健計画の作成・実施の状況，園の環境衛生の管理状況

保健室の指導計画を立て，健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている（資料2－①)。食育については，保健指導や食物アレルギーへの対応を個別に行い，職員研修による資質向上に努めている。保護者に対しては「ほけんだより」（別添資料2－①）などで随時情報を提供するなど園と家庭の共通理解を図っている。園の環境衛生については，学校薬剤師による指導や環境安全管理に努めていることなどから，優れた取り組みであると判断される。とくに今年度も，新型コロナ感染予防対策として，手洗いと手指消毒の方法や咳エチケットなどの保健指導，教室，遊具，文房具や玩具，廊下など園内の床や柱に至るまで職員全員で消毒を毎日行うとともに，登園時の幼児と保護者の体温測定とマスク着用，手洗いと手指消毒などを徹底している。

観点２－２　危機管理対策の見直しと強化

「令和3年度安全管理計画―危機管理マニュアル―」（別添資料２－②）を昨年度の反省にたち見直した上で作成し，それに基づき計画的に安全管理を実施している。定期的な安全点検や防災・避難訓練（資料２－②）を実施することにより事故の防止に努めるとともに，幼児に対しても安全な避難の仕方を身に付け，生命や身体を守ることの大切さが分かるように指導している。また，毎月20日の学校安全の日には，教職員が2人組で園内の安全点検を実施し，危険箇所などは速やかに修理・修繕をしていること，防災・避難訓練の実施（資料２－②），救急法実技講習への参加など，安全管理の強化が十分に図られていることなどから優れた取り組みであると判断される。

評価項目３　組織運営

【評価結果】 以下の内容を根拠として，4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

（評価結果の根拠・理由）

観点３　園務分掌や主任制度が適切に機能するなど，園の明確な運営・責任体制の整備の状況

園の運営・責任体制については，園長・副園長・部内教頭の統括の下，研究部・教育実習部・教務部に主任を責任者として配置し，リーダーシップが発揮されやすいようにするとともに，全教職員が園務分掌に基づき，園経営に主体的に参加できるようにしている。少ない職員数でも相互に連携しながら園務の能率化・省力化のために常に改善・工夫を重ねている。園運営に関しても，毎月の定例職員会議で担当責任者が議題や報告にあげ，全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応し，必ず次年度に向けた反省を欠かさないようにしていることなどから優れた取り組みであると判断される。

評価項目４　研究と研修

【評価結果】　以下の内容を根拠として，4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

（評価結果の根拠・理由）

観点４－１　幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況

近年，子ども・子育て支援新制度や幼児教育・保育の無償化に伴い，保育の質とその評価が問われているが，本園はそれよりもかなり以前から「遊誘財」の視点で継続的に研究に取り組み，保育の質向上を図っている。今年度もコロナ禍でありながら，園外の研修会や研究会等へ積極的に参加したりしている。大学教員との合同研究会は，昨年度同様に今年度もオンラインで行った。大学の支援を受けて機器が充実してきたことで，運営を円滑に行うことができるようになった。幼児教育研究会では昨年度同様にオンラインで開催したところ1100名を超える申し込みがあり，視聴回数は1145回に達した。以上のようなことから優れた取り組みであると判断される。

観点４－２　幼児教育関係者への研修支援等の状況

今年度もコロナ禍でありながら，徳島県教育委員会の各委員会委員，徳島県教育委員会主催の各研修会への講師及び新規採用研修・新任園長研修会における指導，教員の県内外

（鳥取県，兵庫県，県などの教育委員会等）研修会への講演講師の派遣など，県内外での講演や実践指導，文部科学省「幼児教育の質向上に関する検討委員会」・「幼児教育の推進体制構築事業」，国立教育政策研究所プロジェクト研究「幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する調査研究」への協力など精力的に行っており，研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命を十分に果たしていることなどから優れた取り組みであると判断される。

観点４－３　地域住民への貢献

11月オープンスクールを実施したり，教育講演会「保護者と歩む幼児教育（講師：本学理事副学長美馬持仁氏）」をWEB配信（動画視聴回数165回）したりするなど，地域住民に対しても子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割を十分に果たしていることなどから優れた取り組みであると判断される。

評価項目５　教育環境整備

【評価結果】　以下の内容を根拠として，4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点５　設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

今年度は，職員室や各学級などのインターネット環境（Wi-Fi)の更新，園芸倉庫の柱の腐食による整備・修復や雨どいの設置など，施設・設備の充実が図られている。複数体制での安全点検が機能しており，教育環境が常に美しく整備され，令和3年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（別添資料１－①）において「環境整備について」94.1%が「よく整っている」と評価していることなどから優れた取り組みであると判断される。

評価項目６　教育実習

【評価結果】　以下の内容を根拠として，4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点６　専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

今年度もコロナ禍であったにもかかわらず，ふれあい実習（学部1年生5名），附属学校園観察実習（学部3年生5名），附属学校園実習（学部3年生），基礎インターンシップ（大学院子ども発達支援コース1年生1名），総合インターンシップⅠ・Ⅱ（大学院子ども発達支援コース2年生3名）と多数の実習生を受け入れており，実地教育計画表（資料６－①）に基づき，計画的に実習が行われている。教育実習主任をはじめ指導教員のもと，幼児の生活の記録，カンファレンスによる保育の振り返り，自己評価観点表（資料６－②）による自己評価などの工夫がなされており，令和3年度幼稚園評価アンケート結果報告書においても教育実習生に対する肯定的な意見が見られる（別添資料１－②)。

特に今年度は、観察実習の指導をTeamsで行ったり，実習生が考えた運動会の親子ダンスをYouTubeで配信したりするなど，ICTを効果的に活用することができた。指導案や保育記録の提出や，実習録の記入もTeamsの機能を使用した。実習生がTeamsにアップロードし

た内容を，園の教員だけでなく大学の教員もリアルタイムで共有できるようするなど、実習生の学びに多大に貢献していることからも優れた取り組みであると判断される。

参考：学校の現況及び目的

Ⅰ　学校の現況及び目的

１　現況

(1) 学校名　鳴門教育大学附属幼稚園
(2) 所在地　徳島市南前川町2丁目11番地の1
(3) 学級等の構成
　3歳児1学級，4歳児2学級，5歳児2学級
　保育課程 2年保育，3年保育
(4) 幼児数及び教員数(令和3年5月1日)
幼児数127人 教員数7人（正規教員）

２　目的

(1)目的・使命

本園の目的は，附属幼稚園園則第１条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして，幼児を保育し，幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて，その心身の発達を助長する」と定めるとともに，同条第２項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき，保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ，必要な情報の提供及び助言を行うなど，家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また，園則第１条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し，かつ，本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており，具体的には教員養成大学の附属幼稚園として，次のような使命をもった幼稚園でもある。

① 大学と一体となって，教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究幼稚園としての使命
② 地域の教育課題の解明，参観者への指導・助言，文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など，教育界の発展に寄与する使命
③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2)教育目標

本園は，園則第１条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため，次のような教育目標を掲げている。

① 自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
② 健康でたくましい心身を養うこと。
③ それぞれのよさや違いを認め，育ち合う感性を養うこと。
④ 身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。
⑤ 喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。
⑥ 創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3)めざす子ども像

本園は，教育目標に基づき，次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

○ たくましい子ども
○ しなやかな子ども
○ 育ちあう子ども

(4)令和３年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし，中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら，次の3点から教育目標の具現化をはかる。

① 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化をはかる。
② 「遊誘財」研究の成果を生かし，実践の質的向上と専門家養成をはかる。
③ 大学，教育委員会との共同研究・研修を推進する。

(5)評価項目

① 教育課程・指導
・ 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
・ 科学的思考を促す幼小接続の生活プラン（教育課程・指導計画）作成に関する取り組み状況

② 保健安全管理
・ 保健計画の作成・実施の状況，園の環境衛生の管理状況
・ 危機管理対策の見直しと強化

③ 組織運営
・ 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど，園の明確な運営・責任体制の整備の状況

④ 研究と研修
・ 幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
・ 教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況
・ 地域住民への貢献

⑤ 教育環境整備
・ 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

⑥ 教育実習
・ 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況